

3 環境

基本的な考え方 …… 14

グローバルマネジメント …… 15

> 環境側面の重要課題 …… 17

気候変動・エネルギー問題への対応 …… 18

資源の効率利用 …… 22

クリーンな大気の保全 …… 25

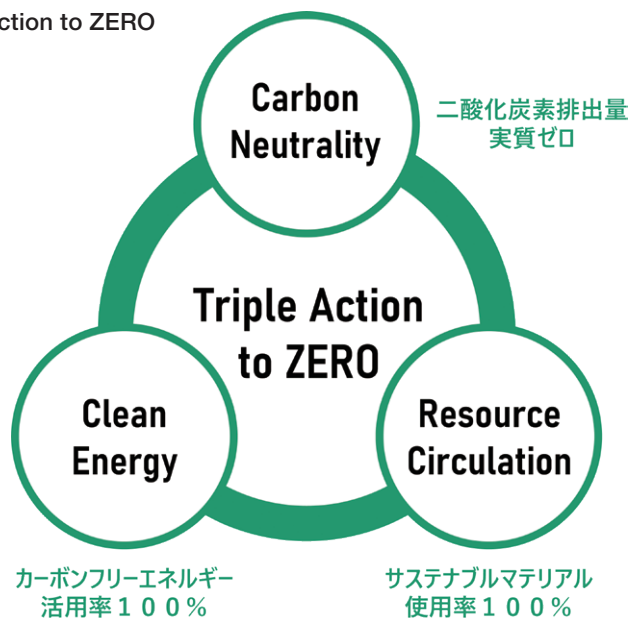
その他の重要課題 …… 26

環境側面の重要課題

Hondaの重要課題

Hondaはマテリアリティマトリックスで課題としてあげている「気候変動・エネルギー問題への対応」「資源の効率利用」「クリーンな大気の保全」に自らの技術と事業活動で取り組み、将来的に「環境負荷ゼロ社会」の実現をめざしています。

Triple Action to ZERO



※ 自然生態系を保全・再生しながら社会課題への対応をすすめる取り組み (Nature-based Solutions (NbS))。

Triple Action to ZERO

Hondaは、この地球上で人々が持続的に生活していくため、「環境負荷ゼロ」の実現をめざし、環境取り組みにおけるコンセプト (Triple ZERO) を設定しておりましたが、2021年には、具体的な目標年や行動を定めた「Triple Action to ZERO」を掲げました。

「カーボンニュートラル」「クリーンエネルギー」「リソースサーキュレーション」、この3つを1つのコンセプトにまとめた「Triple Action to ZERO」を中心にして、取り組みます。このコンセプトは、3つの連鎖を考慮しながら、施策の検討や実行を進めており、国際的な枠組みにおける取り組みの加速やステークホルダーの関心も高まっている“自然に根ざした解決策※”にもつながると認識しています。

2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ

「気候変動問題」への対応として、企業活動、および、製品ライフサイクル観点から排出されるCO₂に対し、産業革命以前と比較した地球の平均気温上昇を1.5℃に抑える目標の達成をめざします。

2050年カーボンフリーエネルギー活用率 100%

「エネルギー問題」への対応として、これまでのエネルギーのリスクを減らす取り組みを超えて、企業活動、および、製品使用において使用されるエネルギーをすべてクリーンなエネルギーにすることをめざします。

2050年サステナブルマテリアル率 100%

「資源の効率利用」への対応として、これまでの資源と廃棄におけるリスクを減らす取り組みを超えて、環境負荷のない持続可能な資源 (サステナブルマテリアル) を使用した製品開発や仕組みづくりに挑戦します。

企業活動領域においては、2050年Honda工場の工業用取水と工業系廃棄物“ゼロ”をめざします。